（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3270500139		
法人名	社会福祉法人放泉会		
事業所名	グループホームさわらび		
所在地	大田市三瓶町池田1219		
自己評価作成日	平成22年10月31日	評価結果市町村受理日	平成23年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　ワールド測量設計
所在地	島根県出雲市荻杼町２７４－２
訪問調査日	平成22年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

9人家族（姉妹）の意識の中「私らしく、あなたらしく、共に生きる」という基本方針のもと、家庭に近い生活環境を整備、提供し、その中で共同生活を行う事によって、精神的に安定した生活を実現し、認知症の進行を緩やかにする事を目指す。花や野菜作り等の活動を多く取り入れ、生き生きとした「その人らしい」生活を送ってもらい、「出来ない事」に対して支援するのではなく「出来ること」を引き出せる様な支援の取り組みをしている。又、嚥下体操，タオル体操、室内歩行等を取り入れ、居室の掃除等日常の生活動作で自然に体を動かし、筋力や機能低下予防に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「福祉は人なり…」との法人理念の基、職員の前向きな姿勢や、常時相手の立場に立った心のこもった支援に感心させられる。地域福祉に貢献し続け、今年25周年を迎えた法人の一員としての自覚が感じられる。又、自分達の笑顔が利用者の笑顔となる事を心得ており、恵まれた自然環境の中、利用者と職員が一緒に楽しく、笑顔でいきいきと生活されている。その中でも、常に利用者の能力を引き出そうとする姿勢を持ち続け、利用者一人ひとりの力が発揮出来るようにアレンジして、みんなで取り組まれた共同作品は、毎年、見る者の心を打つものである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭に近い環境で馴染みの関係を築き、利用者と職員がお互いに協力し合い、共に生活する 本人の尊厳,プライバシーを守り、その人らしい生活を支援する様にしている	法人の理念や方針を柱に、利用者の出来る力を引き出し、「その人らしい生活」「ともに生きる」見守りのケアが実践されている。理念は、年度初めに全職員に渡す事業計画や事業所内にも掲げ、日々話し合う機会を設けている。職員は「自分達が入りたいホーム」を念頭に支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園に行き園児と交流したり、小学校の授業を参観した 又、法人内の施設と共同して行事，クラブ等を開催したり、婦人会と共におやつ作りをし交流している	地域の祭り、運動会、文化祭など積極的に参加している。子供たちとの交流もより活発になってきた。近隣に民家は少ないが、ボランティアの会員を送迎したり、法人広報誌の配布、文化祭に利用者の共同作品を出品するなど、地域との交流を深める中で、認知症への理解や周知に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントや行事には積極的に参加する様にしている 地域の文化祭に作品を出品している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、事業所のｻｰﾋﾞｽ状況等を報告、推進委員より伺った意見は職員間で共有しｻｰﾋﾞｽの向上に努めている	2カ月毎に定期的に開催している。内容によっては利用者も参加されている。利用者家族や地域の方にも参加頂き、活発な意見交換を行っている。又、交代で一般職員が参加する時もある。会議の結果は玄関に置かれ、自由に閲覧出来るようにされている。	会議の結果が、目につきやすいように掲示の工夫を行われましたが、利用者家族へは、会議の内容が確実に伝わるように、「いきいき通信」に要点を添えるなど工夫して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、大田市介護サービス事業者連絡協議会等を利用し行政と連携をとっている	市のグループホーム連絡会や勉強会にはパート職員を含め、一般職員も参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「見守る」ケアに重点を置き、玄関も夜間，外出時以外は施錠していない 玄関にはチャイムを取り付けその都度職員が確認している 外出願望のある時は散歩を実施する	日中は鍵をかけることはない。鍵をかけることの弊害は全職員が十分理解している。利用者の思いや外出傾向、その日の気分や状態の把握に努め、常にホールや事務所に職員がいて目配されているが、一度、無断外出があり、職員で自由や安全、拘束について再確認し、法人と別にホーム単独の連絡網を作成した。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内，外部団体等で開催される勉強会，研修会等に積極的に参加している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症事業所管理者研修，認知症介護実践者研修等に参加し研鑽を積んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な限り事前に見学をして頂き、充分に説明をし、その上で同意を得て契約している 個人情報保護法に留意し、見学の際、実際の活動に参加して頂いたり利用者の方々と交流して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や事業所内に掲示し案内している 法人にて苦情対応の第三者委員を設置している　又、保険者と県、国保連合会の苦情窓口を紹介している	法人家族会があり、ｸﾞﾙｰﾌﾟホームからも参加され、家族間交流や意見交換が行われている。ホーム独自の「いきいき通信」も復活されており、居室担当職員が毎月、利用者一人ひとりのコメントや写真を添えてご家族へ送付し、理解や意見を引き出す努力をしている。	意見箱に入った無記名での提案には、事業所での検討の経過や結果を貼り出すなど、利用者、家族全体へ事業所の姿勢を示しましょう。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会議やグループホーム会議、個別の面接にて意見を聞き、取り入れ、反映出来る様にしている	法人としての教育・研修システムが整えられている。又、職員は各種委員会に参加し、現場の意見を伝え、同時に責任や自覚を育てる場ともなっている。職員も定着しており、提案や意見が言いやすい環境にある。毎月のスローガンを決め、サービスの質の向上に努めている。定期的に自分のケアを振り返る機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護報酬の増、介護職員処遇改善交付金制度、キャリアパス作成などにて、職員の処遇改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者，計画作成担当者は規定の研修を受講している　又、専門機関が主催する研修会にも参加し、その内容を職員間で共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大田市介護サービス事業者連絡協議会等を利用し他の事業所との交流を図っている 市内のグループホーム部会の勉強会に積極的に参加している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず御本人，家族共来所して頂き、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑで生活する上での意見，不安，要望等を聞き、説明し納得の上入所して頂いている　その情報は全職員が把握し共有している　担当の介護支援専門員，主治医等から情報を得ている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に際しては家族と出来る限り話し合い、心配、不安の軽減に努めている 担当の介護支援専門員からも情報を得ている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で、家族や担当の介護支援専門員と情報交換し充分に意向を伺い、対応が出来る様に配慮している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に対し尊敬の念を持って接する様意識統一している 「ともに生きる」の基本方針のもと、利用者と職員がお互い協力し合い、生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に連絡をとり、家族も介護者の一員として意識して頂く様働きかけている 毎月一回、本人の活動の様子や写真を送っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については制限を設けていない　又、要望により家族、職員が付き添い外出等の支援を行っている	職員と地元の祭りや自宅近くへドライブに出掛けたり、家族と自宅や親族宅へ外出や外泊される方もある。家族や知人に年賀状など手紙を書く支援もされている。介護環境が整い、自宅への外泊を繰り返した後、自宅復帰されたケースもあった。馴染みの関係を大事に考え、極力、職員の異動が無いように配慮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員「9人姉妹」の家族 「一つの家」という観点のもと、支援を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも相談は可能であることを伝えている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向を聞き、利用者各々の生活歴や性格，得意な事等を把握し、精神的，身体的にも安定した生活を送られるよう支援している	日々、利用者とのゆったりと関わる時間を心掛け、利用者に寄り添い、思いを伝えやすい雰囲気を作っている。一瞬の表情や言動を見逃さず、利用者が口にされた思いは、そのままの言葉で記録し、共有している。ケアチェック表やモニタリング用紙、ケアプラン表など書式が工夫され、十分なアセスメントがなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に際して、本人，家族，担当者介護支援専門員，主治医より情報収集をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリングの際「今、できる事,できた事」を探す様、留意している		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人の希望や要望を尊重し、又、職員の気付きをケアプランに取り入れる様にしている又、利用者の状態に応じてその都度モニタリングを行い、必要に応じて介護計画の変更をしている	職員は「利用者が出来るようになったこと」を探すように心掛けており、プラン作成や見直しに反映している。家族へも「出来なくなった」不安に共感した上で「して頂いている」「出来る」などプラスのイメージを伝えるようにしている。利用者や家族の希望を取り入れ、ケア会議では夜勤職員も参加し、全職員で話し合って介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別記録を記入し、申し送り，連絡ノート等で情報を共有し、統一したケアに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設を活用し、利用者同士の交流，職員の合同研修により介護の質の向上を図る様にしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議により、民生委員等と意見を交換する機会を設けている　又、地元婦人会との定期交流により、それぞれの役割を分担しながら社交性の維持に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に意向を聞いている 週一回嘱託医の回診がある 歯科，精神科等の協力体制がある	通院の送迎は、基本的には家族にお願いしている。入所時には、利用者や家族にかかりつけ医の希望を確認しているが、週1回、嘱託医の往診があり、希望される方が多い。受診後に家族へ結果報告がされている。夜間も含め、併設施設の看護師との協力体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師の協力を得ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に向けて家族を中心に担当医，看護師長，リハビリ担当，医療相談者等と連携をとり、円滑な退院が出来る様に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在該当者なし 「自立支援」のコンセプトのもと、看取は行っていないが、やむをえず退所の場合も利用者家族に対して法人全体としての支援をしている	「自立支援」をコンセプトにしており、全職員で話し合いを重ね、ホームでの看取り支援は行わない方針である。入所時にきちんと説明がされており、やむを得ず退所された場合でも、病院への引き継ぎ、継続的な利用者、家族への支援が行われており、立派な看取り支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設の看護師による吸引機，酸素吸入器の使用法の指導も随時実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時に備えて地元自治会には依頼済みである スプリンクラーについては現在設置工事中である	消防署の協力で、利用者と一緒に避難訓練を行っている。スモーク体験も行い、避難の際の課題を実感出来た。近隣住民や隣の自治会からの参加もあり、協力体制を構築している。夜勤職員が参加しての夜間想定の訓練も行った。職員は定期的に通報訓練、救急法、消火器の使い方等の指導を受けている。現在、スプリンクラーの工事中であった。	地域に自主防災組織があり、緊急時の協力をお願いしている。地域からもグランドや併設施設を避難場所として開放して欲しいとの要望も出ており、十分な話し合いにより協力体制を整備して頂きたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議，勉強会にて処遇，接遇等について意見交換し職員の意識統一を図り、徹底している	個人情報の利用目的や取り扱いは、家族に説明した上で、書面で同意を得ている。会議や勉強会で職員の意識を統一し、利用者一人ひとりにあった言葉かけや対応がなされている。プライバシーに配慮した入室や排泄支援についても、ケアが統一され利用者の尊厳が守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の希望を重視し、行事，外出，日々の活動も自己決定して頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団ケアと個別ケアを取り入れている 自己決定に基づき支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望を重視している 約二ヶ月に一回の割合で理美容院の訪問あり、髪型等本人の希望を聞いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に準備をし、職員も同じテーブルで食事をし談笑しながら食している 下膳は各自で実施し、食器洗い等は交替で行っている	利用者も調理、片付けなど自発的に参加されている。職員は、利用者と一緒に食卓を囲んで検食や弁当を食べ、和やかに食事をされている。盛り付けや彩にも細やかな気配りが感じられ、食欲を誘っている。又、手作りオヤツも利用者に好評である。献立は法人の管理栄養士のアドバイスを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握し、摂取量の少ない利用者には個別に促している 毎日の飲み物の種類に変化をつけ飽きない様にし、好きな飲み物を選択して頂く時もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄の声かけを実施している（定期的に入歯洗浄剤を使用し衛生に努めている）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを出来るだけ減らす様に、排泄パターンを把握し、定時トイレ誘導を実施している	排尿、排便チェックをしながら、トイレ誘導や排便コントロールを実施することで気持ち良い排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時ヨーグルトを摂取している 水分補給を定時行っている 毎日の日課に体操や歩行、適度な運動を取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3，4回の入浴を実施している 季節や状況に応じてシャワー浴，清拭等を実施している 個人の希望により今夏はシャワー浴を実施した	時間や回数は、利用者の意思を尊重したうえで支援している。入浴は楽しみにされているが、寒くなると2、3日に1回の方が多くなる。今夏は猛暑が続き、希望によるシャワー浴も臨機応変に行った。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	緊急時や疲労の程度に応じ、随時休憩したり疲労の回復にも努めている 外出や散歩の後は必ず休憩してもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと、職員にて管理している 処方内容や服薬一覧表を作成している 処方箋はいつでも確認出来る様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や趣味を活かした作業等の取り組みを実施している　自分の製作した作品が、グループホーム内の廊下壁や共有スペースや各居室に飾られることで張り合い，やり甲斐を持って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ，散歩，畑作業，地域の行事、地域の保育園，小学校の訪問等に外出している	季節を意識した少人数での外出を心掛けている。日常的に外出の機会があり、敷地が広く畑もあるので、作業出来ない方も戸外に出掛けて頂いたり、隣接する法人施設に出掛けて、習字や茶道、音楽を楽しまれたり、又、生け花の講師を招いての交流もある。	日常の外出支援にとどまらず、本人の想いに沿った個別の外出支援が期待されます。普段は行けないような思い出の場所などへ出かけてみられると、新たな話題や表情を引き出す機会になるのではないでしょうか。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に本人，家族の意向を聞き決定している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代読、電話の発信取次ぎ等本人の希望時に実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節毎の花を飾り、装飾なども季節感を出す様配慮している　採光は天窓や窓から出来、テレビ，職員の声のトーンなど状況に応じて配慮している　入浴時の脱衣場にはパーテーションを設置している 冬は堀り炬燵にて集う	木の実等の素材を利用して、利用者と一緒に作る手芸品が飾られ、四季折々の自然を感じながらの暮らしが見受けられる。和室には大きな電気掘りごたつがあり、冬場はコタツを中心にホールで過ごされる方が殆どである。中庭はウッドデッキになっていて、自由に出入りが出来、天気が良いと、テーブルや椅子で過ごされる。ホールや廊下の温度調整にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース（茶の間，ホール）での団らんが可能　又、中庭に共有スペースがあり、机，椅子を設置し自由に出入り出来るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各々利用者の使い慣れた家具等が持ち込める様にしている	立ち上がりが楽な為、殆どの方が持ち込みのベッドを使用されている。全居室の入口に段差があり手すりを設置された。利用者の馴染みの家具や大事な物を持ち込み、居室で読書や日記など自分らしい過ごし方をされている。。ボランティア講師による生花クラブで活けた花が各居室やホールに飾られている。掃除や片づけは職員と一緒に行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて移動し易くしている		